

合同検討委員会ニュース

【鳴子温泉地域版】第4号 2022年4月発行

未来を担う子どもたちへ —教育環境の充実を目指して—

編集発行：学校教育環境整備推進室

問合せ先：大崎市教育委員会教育総務課

Tel：72-5032

Fax：72-4004

メール：ed-soumu@city.osaki.miyagi.jp



第4回合同検討委員会が開催されました

小学校・中学校の統合に関する第4回鳴子温泉地域合同検討委員会が、令和4年3月22日（火）鳴子公民館で開催されました。第3回の会議で出された「小学校のみの統合とした場合の活用校舎を鳴子小学校にした場合」について説明しました。その上で、「これからの鳴子温泉地域の学校教育をどのようにするのか」「使用校舎はどこにするのか」等について、貴重なご意見をいただきました。その結果、鳴子中学校を利用し、小中一貫の義務教育学校で協議を進めることとなりました。今後、各小中学校 PTA や地域の皆さんと意見交換を実施していく予定です。

第4回当日の資料や委員の皆様の見解などを、以下の紙面に集約して皆様にお知らせ致します。

主な資料の説明

1 鳴子小学校の校舎を活用することについて

校舎・体育館共に平成3年築で、築31年経過しており大規模改修工事の対象となっている。令和8年度から2・3年生が複式学級の対象になるが、統合特例措置として加配（教員の定数が一人増えます）が認められるので、複式学級を適応しない（特例は、統合後5年間の措置）。

（学童保育について）学童保育の場所については、鳴子中学校を利用する場合の案として「体育館ミーティング室」か「クラブハウスミーティング室」を利用することについて説明した。

学童保育の場所を含めて「使用校舎をどこにするか」についてのご質問・ご意見をいただきました。

2 主な質問や意見 ○はご意見とご質問 ⇒は教育委員会の回答

○令和7年から9年までの児童数と学童保育の候補地になっている施設の上限人数をみると、希望者が全員入れるのか。

⇒学童保育は留守家庭（共働き家庭）が対象になる。学童保育の運営基準による上限人数は実際の利用者数としての上限となる。親の就労状況にもよるが足りるのではないかと予測しています。

○スクールバスもそうだが、後から定員オーバーで利用できないというようなことが無いようにお願いしたい。

⇒学童保育の担当が利用希望者の調査等を行いながら検討を進めることとなります。資料の候補地は1箇所にまとめた場合を想定してのもので、要望等の状況により各地域で継続することも考えられます。

○どれぐらいの特別支援学級を予定しているのか。

⇒対象となる児童数については、鳴子、川渡、鬼首の特別支援学級の人数をベースに考えており、案の対応で足りると想定しています。コンピューター室については、全児童にタブレットを配布したことにより必要性がなくなったため、特別支援学級として利用する案となります。

○私は鳴子小学校は不适当と考えている。あの狭い学校坂を歩いて登らせる事ほど怖いことはない。冬は特に。スクールバスで上がるにしても、鳴子ホテルの駐車場と重なっていて、車両がバッティングすることもある。プールも実際寒い。鳴子ホテルの温泉のガス抜きがかなり危険。

○小中一貫として鳴子中学校を活用した場合で、校庭が遠く先生の目が届かないという課題に対して、監視カメラの話があったと思うが、その対応策について検討状況を確認したい。

⇒校舎南側の駐車場スペースを遊具の設置スペースにするという考えがあるが、ボール遊びなどはやはり校庭になると思われる。そこを監視カメラでカバーできればと考えています。

○皆が気になっているのは移動時間。休み時間に校庭まで行けるのかということ。

⇒授業の組み方、休み時間の調整、カリキュラム等の教育部分の話し合いは、統合の合意がなされた後、学校教育部会という組織で検討することになります。

○前回小中一貫での統合ということで意思表示させていただいたが、どこか1箇所長く休み時間をとるなど、タイムテーブルを考えて課題をクリアし校庭で遊べるようにしていただきたい。

- スクールバスの話も出ていたが、ホテルの大型バスも上がってきている。その状況でスクールバスは難しいのか。
- ⇒バス会社に確認したところ冬は上らず、児童は駅前で降車し、そこから徒歩で階段を上り登校しているようです。
- 中山から来るスクールバスは冬も上っているはず。
- ⇒確認した内容と実態に食い違いがあるようだが、重要なのはそういった状況を踏まえて相対的に委員の皆様判断いただくということ。鳴子小学校だけでなく、川渡小学校や鳴子中学校の状況を踏まえて、どのケースが鳴子にとって良いのか考えていただきたいと思います。
- まず考えるべきことは子どもの安全。話を聞いていて、鳴子小学校とする場合、いろいろと直さなければならぬところがあるが、実際直すとなってもいつ予算がつくかわからない状況だと思う。
- ⇒国に補助申請して認定になった翌年度となる。現時点ではいつというお話はできない状況です。
- そういった状況を勘案すると、鳴子小学校とするケースには現実味が無いと思う。小中一貫という結論が一番落ち着くのかなと思う。地元から学校がなくなるというのは実際厳しいものがあるが、子どもたちが減っていくなかで、小学校のみの統合として中学校と別にしても良いことがあるようには思えない。
- 1年生から9年生になるとして、行事は全学年で行うことになるのか。運動会や学芸会、文化祭など。
- ⇒運動会については全学年というところが多い。学芸会や文化祭といった部分は学校によって違うという状況。こういった部分は学校教育部会で検討することになります。

＜改めて委員皆様からお考えをお話しいただいた内容＞

- 現実論で考えるのが一番妥当で、行き着く先は鳴子中学校。中学校へ進学した時にギャップを感じるか感じないかというところで、小中一貫校にして建物や異学年の子どもたちに慣れてもらうところが一番。
- 仕事柄、未就学児の保護者や令和8年度に小中学生となるお子さんの保護者とお話をした。統合については皆さんに周知されていて賛成だった。できれば一緒に施設が良い、そうなれば行事等にも参加しやすいとのことであった。当事者の話であり、自分自身も小中一貫が妥当ではないかなと思った。
- 前回も今回も迷い続けている。鳴子中学校は特殊な配置になっている。造るときにこういった配置にならざるを得なかったという事情があったと思うが、現状はこうなので今後、保護者の声、地域の声をくみ取りながら、とにかくより良い方向へ進むように柔軟に対応できる体制を整えてほしい。
- 小学校の卒業式の際、現時点の話として3年後に廃校になりそうだということを保護者に伝えさせていただいた。鬼首小学校の保護者としては、学校がなくなるほどつらいことはないと感じている。
- 学童保育の場所で、候補地にあがっているところで実施すると考えると悲しくなる。放課後の時間はとても重要な時間。子どもたちが本音でぶつかってくる場所。子どもたちのことを1番に考えて構想をたてていただければと思う。
- 今日の会議で鳴子小学校は難しいと思った。いろいろ考えると川渡小学校も厳しいと思うので、鳴子中学校になるのかなということで決心した。ただ、学童は本当にもう少し考えるべきだと思った。
- 本当はどこの学校も単体でやっていきたいと思う。統合するのであれば統合した先に子どもたちが行きたいと思えるような学校、統合して良かったと思える学校を目指していただきたい。
- 皆それぞれ意見があって、それを全部叶えることはできないので、小中一貫として決めて、その中でより良いものを創っていくしかないと思う。皆でより良い学校を創っていただければと思う。
- 学校がなくなった地域は本当に寂しいというのが正直な話だが、子どもたちの未来のために、子どもたちが良かったと思えるような新しい学校を私たちが考えていく時期になったんだと思う。
- 子どもがいる限り学校を存続してほしいというのが本音だし、納得はしないが子どもの安全等これからのことを考えたら、中学校に行くしかないと思った。児童館等についてはもっと考えてほしいと思う。
- 学校がなくなるのは寂しいが、今後、子どもたちが鳴子の豊かな自然の中で伸び伸び学校生活を送れるのであれば統合は仕方ないと思っている。3年後に統合するとして、その後に関わってくる保護者の意見が反映されたら良いと思う。
- 学校がなくなることの寂しさを感じつつ、未来をしっかりとみて、大きな変化を飲み込まなければならぬいんだらうと思っている。また学童を片隅に押し込むようなことがないように、手をかけるところはしっかりかけていただきたい。皆さんの力と知恵をお借りしながら、私たちも、良い方向に大きく変わるために大変な思いをしたいと思う。